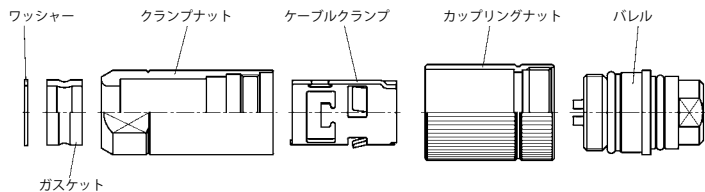


※結線部に強い力が加わるような使い方は避けて下さい。  
 クランプナットを締め込んだ際にガスケット内径部との密着性を損なわない構造のケーブルを選定して下さい。

## 1. 構成図の通りコネクタを分解する。

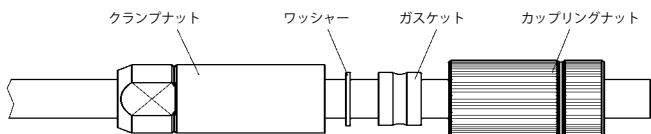
注) ガスケット、ワッシャーは出荷時に組み込まれていません。



- ① クランプナットをバレルから外す (左回りに回す)。
- ② クランプナットからケーブルクランプを取り出す。
- ③ バレルからカップリングナットを外す。

## 2. 分解した各部品を下図の順でケーブルに通す。

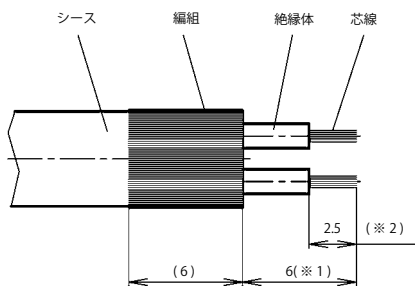
注) 各部品の順番、向きを間違えない様にする。  
 (ガスケット、ワッシャーには向きはありません)



## 3. 使用ケーブルのシース及び絶縁体を指定の寸法で剥く。

編組つきケーブルを使用する場合は、シースを剥き、編組をまっすぐに伸ばした後編組をシースの上に折り返す。

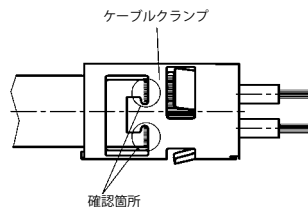
(下図は、編組つきケーブルで編組を折り返したものの)



- ※ 1: プラグ、アダプタに適用
- ※ 2: プラグ、アダプタ、レセプタクルに適用

## 4. ケーブルクランプをケーブルに通し、下図の位置で止めておく。

注) 編組つきケーブルを使用した場合は、図の確認箇所から編組が少し見えること。



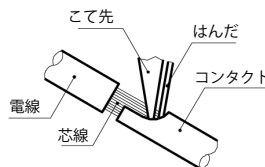
## 5. 線剥きを施した電線の芯線に予備はんだを施す。

注) 予備はんだは、電線の被覆部まで行わないこと。  
 仕上がり状態は、コンタクトの孔径より小さく全体にムラのないこと。

## 6. はんだづけを行う。

注) コンタクトへの過度の加熱はしないこと。  
 使用はんだごては下の表を参照。

- ① コンタクトのソルダーポットに芯線を差し込む。
- ② 図の様にはんだごてで加熱しながらはんだを流し込み、コンタクトと芯線の隙間を埋める。



使用はんだごて	電線導体断面積 (mm <sup>2</sup> )	こて先温度 (°C)
10W	0.2, 0.3	280 ~ 300

こて先温度は共晶はんだでの参考値

※結線部に強い力が加わるような使い方は避けて下さい。  
 クランプナットを締め込んだ際にガスケット内径部との密着性を損なわない構造のケーブルを選定して下さい。

### 7. ケーブルクランプをかしめる。

① ケーブルクランプのガイド凸（写真1）と絶縁体のガイド凹（写真2）の位置をあわせて下図1の様にケーブルクランプを組み込む。

注）必ずガイドを合わせること。

② ケーブルクランプのかしめ箇所（下図1）をラジオペンチの先端でケーブルに食い込ませる様にかしめる。

注）※編組つきケーブルを使用した場合は、ケーブルクランプのかしめ箇所（下図1）をラジオペンチの先端で編組に食い込ませる様にかしめる。  
 ※ケーブルクランプをバレル部組に押し当てながらかしめること。この時（下図1）の寸法であるか確認すること。  
 ※かしめ箇所以外にラジオペンチが当たらない様に注意すること。

写真 1

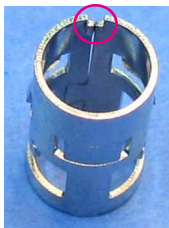
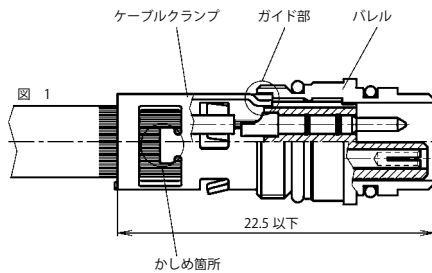
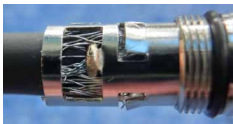


写真 2



③ かしめ状態を確認する（写真を参照）。

注）編組つきケーブルを使用した場合は、ケーブルクランプからはみ出した編組をニッパー等で切り揃える。



かしめ具合



食い込み具合

### 8. 下記の要領でコネクタを組み立てる。

注）※断線するおそれがあるのでバレルを回転させて締め付けないこと。  
 締め付けのトルク値は下の表を参照。

※ガスケット類に汚れが付着すると防水性に影響が出ることもあるので、きれいな状態で作業すること。

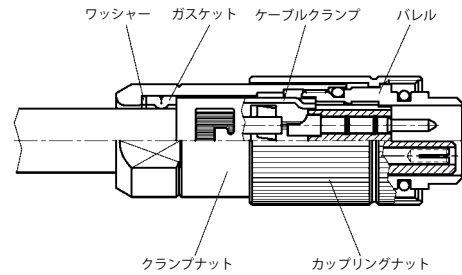
① カップリングナットをバレルに組み込む。

注）バレルに組み込まれているOリングを乗り越えること。

② ガスケット、ワッシャー、クランプナットを組み込む。

③ バレルを固定し、クランプナットを締め付ける。

注）遮蔽性能が必要な場合は、編組とコネクタシェルの導通を確認すること。



締め付け箇所	シェルサイズ
	8
バレル-クランプナット	0.5～0.7